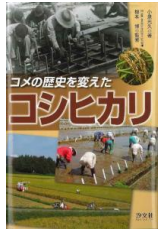




『ぜんぶ夏のこと』

薫くみこ／著 PHP研究所 2013

夏休みの間、美月は、おばさんの海の家で過ごすことになりました。土地の子で、泳ぎがうまい、ようきな沙耶ちゃんに出会います。短い夏休みに、悩んで、泣いて、笑って、走って…。少女たちの成長を描いた物語です。



『コメの歴史を変えた コシヒカリ』

小泉光久／著 根本博／監修 玉城聡／挿絵 汐文社 2013

「越」（越前・越後）の国の農家の未来が、光かがやくようにと願って名づけられた「コシヒカリ」。今では、日本の米の品種として有名ですが、この品種を作り、ながくひろめていくためにたくさんの人々の苦労の歴史がありました。



『ローズの小さな図書館』

キンパリー・ウィリス・ホルト／作 谷口由美子／訳 徳間書店 2013

この物語は父親が家を出て行って、母親と弟・妹と一緒に、母親の故郷のルイジアナ州へ移る 14 歳のローズから始まり、その息子、孫、ひ孫の四人の世代をまたぐ家族の物語です。本好きの人ならとても夢中になることができる、心に残るお話です。



『紙コップのオリオン』

市川朝久子／著 講談社 2013

ある日、突然母親が出ていき、論里は父親と妹と三人でなんとか生活をしていきます。学校では創立二十周年記念行事の実行委員をすることになり、キャンドルナイトにむけて準備に追われていきます。論里が、母の帰りをまち悩みながらも、前に進んでいく姿が描かれています。



『ふたつの月の物語』

富安陽子／著 講談社 2012

養護施設（ようごしせつ）で生まれ育った美月と、育ての親をなくしたばかりの月明は、ある日、謎の富豪・津田節子の別荘に招待されます。美月（みづき）と月明（あかり）、名前に月を宿すふたりの少女が出会うとき、湖底に沈んだ大口真神（おおくちのまかみ）の伝説がよみがえります。

もう 1 さつ



「あまり本をよまないな—」
そんな人は、感想文の本のほかに
もう1さつ本を
よんでみるいいかい。

「本だ—いすき！」
そんな人は、1さつでも多く本を
よむ、いいかい。

このブックリストでは、
さいきん出たおすすめの本を
ごしょうかいしています。

みなさん、夏休みにあと
“もう1さつ”、本をよんで
みませんか？

すてきな本にであえたこと
きつと夏休みのいい
思い出になりますよ！

このブックリストは出版者の許可を得て表紙を掲載しています。
2014年7月 発行：宮崎県立図書館 こどもしつ
電話：(0985) 29-2596





『セミとわたしはおないどし』

高岡昌江/文 さげさかのりこ/絵 福音館書 2012

こうていで みつけた「セミのぬげがら」。ニイニゼミのぬげがらだとわかった みーこは、夏やすみにはいって、セミのぬげがらについてかぞくでしらべることになりました。しゃしんと絵でせつめいされた、とてもわかりやすい本です。今日からあなたもセミのぬげがらを調べたくなるかもかもしれません。



『七月七日はまほうの夜』

石井睦美/作 高橋和枝/絵 講談社 2013

なかよし三人組 りえ、みな、ゆかは すずしい神社で あそんでいました。すると、ものおき小屋を見つけ、中をたんけんすることに。そこには、はたおりの道具があり、ずっとむかしに天からながれおちた、おばあさんがあらわれました。



『にじ・じいさん にじはどうやってかけるの?』

くすのきしげのり/作 おぐらひろかず/絵 BL出版 2013

「にじが、かかりますように」というたんざくのおねがいをかなえるために、白ハトのクルルは、どんなにじでもかけているという、にじじいさんをさがしにいきます。ふしぎな「にじじいさん」のおはなしです。



『ぼくたちいとはまたんていだん』

三輪一雄/作・絵 松岡芳秀/写真 偕成社 2013

海岸で漂着物(ひょうちやくぶつ)をさがす「ビーチコーミング」をしょうかいしている本です。2人の子どもが、じっちゃんから出された、なぞときゲームにちょうせんしながら、いろんな体験をして、漂着物のふしぎをしります。季節ごとの実物大の写真は、見ていたのしいですよ。



『あいしてくれて、ありがとう』

越水利江子/作 よしざわけいこ/絵 岩崎書店 2013

ぼくたちをあいしてくれた、おじいちゃんとの思い出が いっぱいつまった本です。しおあじのきいたおにぎり、ふすまにかいた「なんでもなる木」、夜店ぶとん、すいか灯ろう。みんなで手紙を書いて、風船にむすんで飛ばします。そのむこうのおじいちゃんに届きますように。



『べんり屋、寺岡の夏』

中山聖子/作 文研出版 2013

三舟の父は売れない画家で、母はべんり屋さん。好き勝手なことばかりしている父をみて、将来の自分というテーマの作文で「まっとうに生きる」と書いた三舟。夏休みのある日、家を空けていた父から電話があり…人生に前向きになれる一冊です。



『ぼくは満員電車で原爆を浴びた 11歳の少年が生きぬいたヒロシマ』

米澤鐵志/語り 由井りょう子/文 小学館 2013

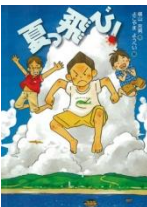
広島原爆かたりべの米澤さんは、11歳の時、電車のなかで被爆(ひばく)します。いっしょにいた母親と母乳を飲んだ妹が同年に死亡。この本は、きせきてきに助かった米澤少年の目で見た、8月6日のことと、その後なにがおこったかを教えてくれる記録本です。



『ホッキョクグマが教えてくれたこと ぼくの北極探検3000キロメートル』

寺沢孝毅/著 あべ弘士/絵 ポプラ社 2013

地球の温暖化で、北極がいまどうなっているのか確かめるために、29日間の夏の北極探検に出発した「こんきち号」。言葉をうしなうほどの自然とたくさんの動物に出会い、ホッキョクグマから寒さの大切さを感じとります。北極で生きる命のすばらしさを伝える一冊です。



『夏っ飛び!』

横山充男/作 よこやまようへい/絵 文研出版 2013

勇人の学校に友也という転校生がやってきました。10メートルの高さからふんどしすがたで川にとびこむ神柱祭に、勇人は友也といっしょにさんかすることになりました。友也といっしょに勇人もせいちょうしていくおはなしです。



『3人のパパとぼくたちの夏』

井上林子/著 宮尾和孝/絵 講談社 2013

「もうげんかい!」6年生のめぐるは、家事とうばんをサボりすぎるお父さんにおこって、家出をします。家出のさいちゅうに知り合ったさなちゃんとひなちゃん。ふたりのおうちには、夜パパと朝パパがいて・・・。3くみの親子の夏のものごとがたりです。

